

★ 栄光・表彰 ～輝くとき～

各分野で活躍された皆さまをご紹介します

令和8年度 第6回角館猟友会クレー射撃大会

6月14日、田沢湖クレー射撃場で令和8年度第6回角館猟友会クレー射撃大会が開催されました。

【大会の結果】(敬称略)

- ▶優勝 伊澤芳朗
- ▶準優勝 菅原清一
- ▶第3位 笹淵誠
- ▶第4位 茂木直人
- ▶第5位 鈴木治



松橋広さんへ、 仙北警察署長より感謝状を贈呈

行方不明となっていた高齢男性の早期発見に貢献した松橋広さんへ、仙北警察署長から感謝状が贈られました。

松橋さんは、6月13日に行方不明となっていた高齢男性を発見・保護し、人命救助に多大な貢献をされました。その迅速で的確な対応により、男性の安全確保につながりました。

この功績を称え、仙北警察署長から感謝状が贈呈されました。



左から松橋広さん、佐藤仙北警察署長

第68回秋田県美術展(デザイン部門)

第68回秋田県美術展(県展)のデザイン部門で、角館中学校3年の坂本絆奈(はんな)さんの作品「潮目の彼方」が特賞(県知事賞)を受賞しました。7月13日には、市役所を訪れ、田口市長に受賞を報告しました。

坂本さんは、「小さな頃から絵を描くことが好きでした。これからも描き続け、将来はデザインの道に進みたいです」と笑顔で話してくれました。



鈴木千代和さんと竹下正勝さんへ、 消防長より感謝状を贈呈

7月7日、西木消防分署において、人命救助に貢献された鈴木千代和さんと竹下正勝さんへ、消防長より感謝状が贈呈されました。

2人は5月25日16時頃、農作業中に隣接する農業用水路に流されていた男性を発見。協力して用水路から引き揚げ救助しました。その後、男性は駆けつけた救急隊へ引き継がれ、市内の医療機関へ搬送されました。

迅速な行動により尊い命が救われたことから、その功績を称え、感謝状が送られました。



左から鈴木千代和さんと竹下正勝さん

副市長に大澤氏が就任

6月26日に開かれた市議会本会議で同意を得て、大澤裕司氏が7月1日付で副市長に就任しました。



副市長 大澤 裕司

就任のごあいさつ

このたび、7月1日付で副市長に就任いたしました。身に余る重責を担うこととなり、責任の重さを改めて実感しています。

現在、本市は人口減少や少子高齢化への対応に加え、持続可能な地域医療の確保など、多くの課題に直面しています。こうした課題に真摯に向き合い、市長を補佐しながら、市民の皆さまとの対話を大切に、これまで培ってきた経験を活かして職責を果たしてまいります。

皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【主な職歴】

平成 6年4月 田沢湖町役場採用
平成 17年9月 仙北市職員
平成 30年4月 市民福祉部社会福祉課長
令和 3年4月 市民福祉部次長
令和 4年4月 市民福祉部長
令和 5年4月 総務部長

人事異動のお知らせ

- ▶総務部長 齋藤 洋(企画部長)
 - ▶企画部長 泉谷 衆(企画部次長兼まちづくり課長)
- ※7月1日付、カッコ書きは前職

善意ありがとうございます

(株)北日本鉄工・(株)ケーエンジニアリング

害獣捕獲用箱罠と捕獲通知システムを寄贈いただきました

6月22日、角館庁舎で害獣捕獲用箱罠と捕獲通知システムの寄贈式が行われました。

寄贈いただいたのは、北秋田市の金属加工会社・(株)北日本鉄工(代表取締役 鳥潟剛治)が製作した害獣捕獲用箱罠「入るベアー2」と、秋田市のアプリケーションソフトウェア開発会社・(株)ケーエンジニアリング(代表取締役 金野正史)が開発した捕獲通知システム「箱罠テレメータ・入ったベアー」です。

このシステムは、箱罠に害獣が捕獲されると、その状況をウェブ上で確認できるもので、迅速な対応が可能となります。

寄贈式では、田口市長が両社に対し、「観光地である仙北市では、クマ対策の一層の強化が求められています。このたびのご寄贈に心から感謝申し上げます。有効に活用させていただきます」と謝意を述べました。



左から田口市長、金野さん、鳥潟さん

若鮎応援プラン大学等進学給付金事業について

【若鮎応援プラン大学等進学給付金事業】実施のため、仙北市出身の草薨正利様から、令和8年3月に24万円、令和8年6月に48万円のご寄付をいただきました。この事業は、若鮎応援プラン進級祝金を高等学校等在学中に受給した学生を対象としており、教育の機会均等を図るため学業成績が優秀であるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な大学等進学の学生に対して給付金の支給を行うものです。現在4人が給付学

生として認定を受けています。支給金額は月額4万円で四半期ごとに4回支給を予定しています。草薨様からは、今後とも寄付を継続したいとの意向をいただいております。未来を担う子どもたちのためにこの事業を通じて活用させていただきます。

問合せ / 仙北市学校教育課 ☎ 43-3382

特集
Vol. 1

仙北市病院事業インタビュー！ ～信頼される病院を目指して～

本特集では、仙北市病院事業スタッフへのインタビューを通じて、仕事の魅力・やりがいなどを多角的な視点から掘り下げていきます！

この仕事に就こうと思ったきっかけを教えてください！

小学校2年生の時、大好きだった祖父を肉腫で亡くしたことが、医師を志すきっかけになりました。身近に医師や歯科医師の叔父たちがいたこともあり、医師という仕事を自然と身近に感じていました。その頃から「がんを治す医師になりたい」と考えるようになりました。

医学部に入ってから、がんを手術で治療する診療科に進みたいと考えていましたが、一方で、手術を数多く経験したいという思いもあり、最終的には手術件数の多い整形外科を選びました。

職場として角館総合病院を選んだ理由を教えてください！

最初のきっかけは、大学医局の人事でした。医師の多くは大学の医局に所属しており、勤務先は大学から打診されて決まることがあります。私が当時の公立角館総合病院へ赴任したのは、1999年7月でした。

角館は自然に恵まれた美しい町で、とても住みやすい場所です。また、秋田市や盛岡市へのアクセスも良く、新幹線もあるため、仙台や東京にも移動しやすいという利便性もあります。そうした環境にも魅力を感じ、今後も角館総合病院で勤務したいと希望し、現在に至っています。

仕事における「やりがい」は何ですか？

整形外科は、命に直結する場面ばかりではありませんが、患者さまの生活の質や健康寿命に大きく関わる診療科です。骨折した方の治療や、足腰の痛みによって日常生活に支障をきたしている方の症状改善などに取り組んでいます。

特に、膝関節の痛みで歩くことが大変だった方が、人工関節置換術によって再び歩けるようになった時や、体を動かすことが難しかった方が腰の手術によって症状が改善し、歩いて退院される姿を見ると、「手術をしてよかった」と強く感じます。

市立角館総合病院 院長
えびな としひと
蝦名 寿仁 先生

印象に残っている出来事を教えてください！

最も印象に残っているのは、東日本大震災です。当時、私は手術中でした。手術する部分を照らす无影灯が大きく揺れ、ぐるぐると回っていた光景を、今でも鮮明に覚えています。

その後しばらくは医療物資が十分に入らず、普段通りの医療を行うことが難しい状況が続きました。当時、当院にはDMAT（災害派遣医療チーム）はありませんでしたが、現在は災害時に各地へ派遣される体制が整えられています。災害時にも地域の医療を守ることの大切さを、改めて実感した出来事でした。

これからの地域医療について、どんな未来を描いていますか？

人口減少の影響もあり、私が赴任した当時と比べると、病院の規模は少しずつ変化してきています。すべての疾患を当院だけで治療できるわけではありません。

それでも、私たちは「仙北市民の生命を守る」という思いを大切に、日々の診療にあたっています。これからも、地域の皆さまに今まで以上に信頼していただける病院を目指し、職員一同、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今後も病院スタッフのインタビュー記事をお届けします！

第20回大仙・仙北・美郷畜産共進会

7月1日に大仙市市岡・さくら公園で、第20回大仙・仙北・美郷畜産共進会が開催されました。市内からは第1部肉用牛の部と第3部肥育牛の部に、5農家10頭が出品され、肥育牛の部では西木の伊藤則夫さんが優等賞を受賞しました。なお、第1部肉用牛の部で上位の成績を収めた牛は9月2日に開催される秋田県和牛改良共進会に出品する予定です。

成績は次のとおりです。

【成績】〈敬称略〉

第1部 肉用牛

- ▶ 第1類（育成雌）1等賞 おう568号 相馬勲（角館）（県共出品）
- ▶ 第1類（育成雌）2等賞 そのだ330号 菅原孝作（角館）（県共出品）
- ▶ 第2類（若雌の1）1等賞 こまくさ123号 小原洋一（田沢湖）（県共出品）
- ▶ 第2類（若雌の1）2等賞 おう561号 相馬勲（角館）
- ▶ 第3類（若雌の2）1等賞 はるな号（株）チクテック（田沢湖）（県共出品）
- ▶ 第3類（若雌の2）2等賞 みふゆ号（株）チクテック（田沢湖）（県共出品）

第3部 肥育牛

- ▶ 優等賞 源鈴号 伊藤則夫（西木）
- ▶ 2等賞1席 休太号 伊藤則夫（西木）
- ▶ 2等賞8席 たかこ号（株）チクテック（田沢湖）



肥育牛の部で優等賞を受賞した伊藤則夫さん夫婦

人権擁護委員、委嘱状交付

令和8年7月1日付けで浅利浩子さん（再任：西木町桧木内）、茂木一代さん（再任：角館町小勝田）に人権擁護委員の委嘱が法務大臣より発令されました。委員の任期は3年で、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動や、人権相談などを積極的に行っています。

交流40周年に向けて

～田沢湖と澄清湖を結ぶ友好の架け橋～

仙北市を代表する観光資源の一つである田沢湖の「たつこ像」。実は、海を越えた台湾にもあることをご存じでしょうか。

1986年、当時の田沢湖町は、冬季の観光振興を模索する中で台湾との交流に着目し、高雄市の澄清湖と出会いました。これをきっかけに、田沢湖町の商工会と観光協会が「田沢湖国際交流促進協議会（仙北市国際交流協会の前身）」を組織しました。

両湖の「姉妹湖」提携に向けた取り組みが始まり、翌1987年11月4日には、日台間初となる姉妹湖提携の調印に至りました。

この提携を記念し、1990年には澄清湖に「辰子飛翔の像」を贈り、翌1991年には澄清湖を管理する台湾自来水公司から「飲水思源像」が田沢湖に贈られました。

また、飲水思源像周辺では毎年、国際交流協会による花壇の植栽活動が行われ、現在も友好の歴史が大切に受け継がれています。

「台湾自来水公司」とは

台湾の水道行政を担う国有企業として、水源管理から給水までを一貫して担い、澄清湖をはじめとした水資源を人々の暮らしへ届けています。

【問合せ】

仙北市国際交流協会事務局（交流デザイン課） ☎ 43-3353



田沢湖に行った際は、歴史や想いにふれられる「飲水思源像」へぜひお立ち寄りください。

澄清湖に贈った「辰子飛翔の像」

仙北市を伝える、新たな力

～地域おこし協力隊に着任 西山 伶（にしやま れい）さん～

仙北市地域おこし協力隊として西山 伶（にしやま れい）さんが着任し、7月1日に委嘱状が交付されました。

仙北市ではこれまで12人の協力隊員を受入れ、西山さんが13人目となります。

大分県出身の西山さんは、幼少期をアメリカで過ごしたのち、2014年に帰国。その後、東京都内の高校、大学を卒業しました。都内で生活する中、昨年、10日間の滞在型体験プログラム（リトリート推進モニターツアー）に参加したことで、仙北市の自然と人の温かさが持つ力を実感。この地での暮らしに強く惹かれ、これが転機となり協力隊に応募したそうです。

学生時代から音楽アーティストとして活動し、自主イベントの企画・運営や、フォロワー数2万人規模のSNS運用により、広く国内外への情報発信を行ってきました。

西山さんは協力隊として、当市の景観価値を活かしたリトリート推進をミッションとして、SNSなどのさまざまな媒体を利用したPR活動や、グリーンツーリズムを通じた関係人口の創出などに取り組みます。



建設の仕事を楽しく体験

～第6回はたらくくるま見学会～

6月26日、佐藤建設（株）で「第6回はたらくくるま見学会」が開催され、園児たちがさまざまな建設機械に乗り、仕事の魅力に触れました。

この見学会は、新型コロナウイルス感染症の流行で園の行事が相次いで中止となる中、「園外に出掛けなくても子どもたちが楽しめるイベントを」との思いから、だしのこ園と佐藤建設（株）が中心となって始まった取り組みです。地域の機械リース会社などの協力を得ながら毎年開催され、今年で6回目を迎えました。

会場にはショベルカーや高所作業車など多くの建設機械が並び、園児たちはオペレーターの説明を受けながら運転席に乗り、実際にレバーを操作してアームを動かすなど、普段はできない貴重な体験に目を輝かせていました。

イベントを主催した平川槇妙子さんは、「建設業は人手不足が続いています。この体験を通して、建設の仕事を手近に感じてもらえたらうれしいです。男の子だけでなく女の子にも興味を持ってもらい、将来の職業を考えると建設業も選択肢の一つとして思い出してもらえれば」と話しました。



訂正とお詫び

7月号の記事（27ページ 未来に残そう 角館のサクラ～桧木内川堤のサクラに春の施肥作業（お礼肥え）～）の中で表記に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。【誤】6月31日 → 【正】5月31日

職人の技とものづくりの楽しさ

～秋田県建築労働組合角館支部主催 第31回住宅デー～

6月21日、秋田県建築労働組合角館支部主催の「第31回住宅デー」が立町ポケットパークで開催されました。

会場では、職人による刃物研ぎが行われ、多くの来場者でにぎわいました。次々と持ち込まれた刃物は、職人の手によって切れ味鋭い一品へと生まれ変わっていました。また、職人の指導を受けながら木工品を製作する木工教室も行われました。

市内から参加した藤川瑛斗さんは、「最初はうまくできませんでしたが、後半はコツをつかんで上手に釘を打てるようになりました。うれしかったです」と笑顔で話しました。

小野支部長は、「最近はパソコンなどに興味を持つ子どもが増えています。金づちを使って物を作り上げる楽しさを知ってもらいたいです」と話していました。



デジタルで描く、未来のまち

～デジタルツイン活用へ3者が連携協定を締結～

6月23日、仙北市、(株)テクノス秋田、(株)フォーラムエイトの3者は、「デジタルツインによる持続可能な地域の実現に向けた連携協定」を締結しました。

デジタルツインとは、現実世界に存在するモノや空間を、デジタル空間上に再現する技術です。

今後は、防災やインフラ維持管理、観光振興などさまざまな分野でこの技術を活用し、将来像を可視化できるなど、地域課題の解決に繋がる取り組みを行う予定です。



八幡平地域の魅力と価値を再確認

～十和田八幡平国立公園 八幡平地域指定70周年記念フォーラムを開催～

7月10日、十和田八幡平国立公園の仙北市を含む「八幡平地域」は、国立公園指定70周年を迎えたことを記念し、八幡平ハイツ（岩手県八幡平市）にて「十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年記念フォーラム」が開催されました。

八幡平地域の魅力と価値を再確認するとともに、国立公園の保護と利用のさらなる発展を目指すために開催され、一般参加者や関係者など約200名が参加。有識者による基調講演やパネルディスカッションなどが行われ、これまでの70年の歩みを振り返りながら、国立公園の未来像について参加者全体で理解を深める貴重な機会となりました。



左から石田瑠美子氏、吉田春彦氏、平山順子氏、山本清龍氏、庄司智春氏、木村卓寛氏

交通安全・防犯意識を高める

～西明寺中学校で交通安全教室～

7月13日、西明寺中学校で交通安全教室が開かれ、全校生徒が参加しました。教室では、運転者目線の映像を用いた「動画 KYT（危険予測トレーニング）」を体験し、事故につながる危険な場面を予測しながら、安全な行動について学びました。

また、自転車の「ながら運転」体験も行われ、生徒たちは通常走行との違いを実感。注意力が散漫になる



ことで事故につながる危険性を学び、交通ルールを守ることの大切さや安全運転への意識を高めていました。

参加した生徒は「これから自転車を利用する機会が増えると思うので、今回学んだことを忘れず、交通ルールを守って安全に運転していきたい」と話し、交通安全への意識を新たにしていました。



～向川桜子さん 一日警察署長（仙北警察署）～

7月15日、2026年ミラノ・コルティナ冬季オリンピックのスキークロス競技日本代表の向川桜子選手（横手市出身・角館高校スキー部卒）が仙北警察署の一日警察署長に任命され、交通安全と防犯を呼びかけました。向川選手は、よねや、ワンダーモール、市役所角館庁舎、市立角館総合病院を訪れ、買い物客や来庁者に交通安全や防犯意識の高い地域づくりについて呼びかけました。

市役所角館庁舎では、角館こども園の年長児約30人に交通安全チラシを手渡し、「道路を渡るときは左右をよく確認すること」など、安全な行動の大切さを優しく伝えました。園児たちも笑顔でチラシを受け取り、交通安全への意識を深めていました。



思いおもいの作品を創作

～夏の芸術体験教室～

7月20日、西木総合開発センターを会場に「夏の芸術体験教室」が開催され、日ごろより市民の学習活動を奨励し、生涯学習を推進している仙北市生涯学習奨励員が講師やサポートを務め、さまざまな石の形を生かしたストーンアート制作が行われました。

当日は、大曲支援学校せんばく校の同窓会「せんばく桜スクール」の皆さんや市民の方など、関係者あわせ約50人が参加し、作業手順や展示作品を参考にしながら、思いおもいに想像力を膨らませ、個性あふれる作品を創作しました。

完成後には、茶話会でお互いが作品を紹介し合い、和やかな雰囲気の中で芸術体験を楽しみ、参加者同士が交流を深めるよい機会となりました。



磨き上げた技術で、地域の安全を守る

～仙北市消防訓練大会～

6月28日、仙北市消防訓練大会が落合運動公園駐車場を会場に行われました。

小型ポンプ操法の部には、市内の消防団全10分団から14隊、規律訓練（披露）の部には田沢湖・西木・角館地区から各1隊が出場し、日ごろの訓練の成果を発揮しました。

大会当日は天候にも恵まれ、団員は一つひとつの動作を正確に素早く行っていました。

小型ポンプ操法の部の上位3隊は7月18日に大仙市で行われた秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会に出場しました。

▶仙北市消防訓練大会の主な成績は次のとおりです。（敬称略）

小型ポンプ操法の部		個人賞（小型ポンプ）	
優勝	第4分団2班（神代地区）	指揮者	荒澤 勇希（第4分団3班）
準優勝	第4分団3班（神代地区）	1番員	高橋 修造（第4分団2班）
第3位	第8分団1班（中川地区）	2番員	藤枝 諒平（第10分団2班）
		3番員	藤川 篤（第4分団2班）



統率の取れた動きを披露した規律訓練



消火技術を競う小型ポンプ操法

写真で出会う、地域の魅力

～『写真展』を開催
田沢湖芸術文化協会写真部～

7月3日から6日まで、田沢湖観光情報センター「フォレイク」（田沢湖駅構内）で、田沢湖芸術文化協会写真部による写真展が開催されました。会場には、会員が撮影した四季折々の風景や自然、地域の行事など、多彩な作品が展示され、来場者は写真に見入りながら、それぞれの作品の魅力を楽しんでいました。

難波和夫会長は、「ぜひ多くの方に会場へ足を運んでいただき、写真の魅力と、その作品を通して伝わる地域の魅力の両方を感じていただきたい」と話し、写真を通して地域の魅力を発信したいという思いを語りました。



出前授業で地域の未来を考える

～角館高校（情報ビジネスコース）出前授業～

6月23日、秋田県立角館高等学校で、情報ビジネスコースの生徒31人を対象に、JTB 秋田支店、NEXCO 東日本東北支社、東北運輸局による出前講座が開かれました。

講座では、観光データを基に秋田県や東北の観光の現状が紹介されたほか、地域資源の魅力を発信する観光周遊企画や新たな観光需要の創出、探究活動のヒントなどについて学びました。

生徒たちは熱心に耳を傾け、「地域課題をビジネスチャンスに変える視点」などについて質問し、地域の強みを生かした観光やビジネスへの理解を深めました。講座の最後には、生徒から「インバウンド需要も生かしながら、地元の課題解決につながる研究活動に励みます」と今後の抱負が語られました。

